

ワークショップ4

「*Helicobacter pylori* 陰性胃癌の多面的アプローチ：解明と診療への実践」

司会 草野 央（北里大学医学部消化器内科）
磯本 一（鳥取大学医学部消化器腎臓内科学）

今後、*H. pylori* 除菌後胃癌は徐々に減少し、*H. pylori* 未感染胃癌が主要な胃癌として位置づけられるまでには一定の移行期間が想定されます。その間、除菌後胃癌については、サーベイランスをいかに設計すべきか、IEE を含む画像技術により診断精度が向上し得るのかなど、議論すべき点が残されています。一方、未感染胃癌に関しては、病態や分類の整理、スクリーニングの必要性、胃癌死亡への寄与度など、今後明らかにすべき課題も存在します。

H. pylori 陰性胃癌に関する現状の課題について理解を深め、今後の臨床戦略につながる建設的な議論を期待しております。